

# 運送業界の健康支援を生きがいに

## 140 夜行バス運転者の寝過ごしと健康起因事故

1月20日に山陽自動車道で起きた、バス運転者の寝過ごし事件。これにより、広島から大阪に向かっていた夜行バスに17人が閉じ込められたというニュースは、大事故には至らなかったものの、「寝過ごし」だけでは済まされない、実に多くの問題が露見したと考えられます。限られた情報ではありますが、なぜ、このような事態に陥ったのか…その背景と問題の論点を整理したいと思います。

◆ただ眠かっただけではなく  
38歳の運転者は前日まで体調不良で2日間、会社を休んでいました。仮眠を行った目的はただ「眠かった」だけではなく、風邪を原因とした体調不良や、薬による副作用などが考えられなくはないでしょうか。もう少し状況を掘り下げてみますと、

次は、運行管理者のシフトが適切だったかどうかという問題です。2日間も体調不良で休んでいた運転者が、休み明けすぐに夜行バスを運転できるほどに体力が回復できていたか否かという点、疑わしいと言わざるを得ません。点呼時における薬の副作用有無の確認や、体温測定、体調チェックなどはどうだったのでしょうか。さらに、仮眠を事前に連絡していなかったなど、管理体制の不十分さも伝えられています。

◆バス会社の教育と管理体制は？  
意外なことに、職業ドライバーを抱えるバス・タクシー・トラック会社でも、風邪や花粉症の薬に含まれている眠気成分や、インペアード・パフォーマンスという、集中力や認知機能を低下させる、服薬などの注意についての教育を行っているところは、まだまだ少ないように思われます。

◆再発防止の徹底を  
しかし、眠いまま走り続けてれば、大事故にもなりかねなかったと思うと、「寝過ごし事件」で終わったことに、ほんとは安堵せずにはいられません。今回のように事故には至らなかったものの、体調不良を原因として運転が継続できないケースは「健康起因事故」として国交省への報告が義務付けられています。今回の事例を「対岸の火事」として見過ごすのではなく、教訓と捉え、服薬教育、点呼のあり方、社内の管理体制など、さらに徹底いたたくことを切望します。(次回は3月13日号に掲載)



《全日本トラック協会 SAS 検査受託機関》  
NPO 法人 ヘルスケアネットワーク (OCHIS)

副理事長 作本 貞子

「安全と健康を推進する協議会(両輪会)」代表  
国土交通省健康起因事故対策協議会委員

TEL : 06-6965-3666

FAX : 06-6965-5261

東京オフィス TEL : 03-3295-1271

E-mail sakumoto@ochis-net.com

HP <http://sas.ochis-net.jp/>